

広報委員 の一言



お正月になると、どうしても駅伝を見てしまう。正確に言えば、「見ないと落ち着かない」。この習慣は、平塚出身の妻と結婚してから身についたようだ。箱根駅伝のコースがすぐ近くを通る土地柄、彼女の実家では、子どもの頃から正月の恒例行事だったという。かつての私は、年始といえばただ漫然と過ごす側だったが、沿道で旗を振る人々の映像を眺めたり、その場に足を運んで一緒に応援していると、なにげない正月が徐々に生き生きと動き始めた。

新潟では夕日が海に沈む。あちらでは海から朝日が昇る。同じ日本なのに、太陽の出入りの向きが違うというのは、理屈では知っていても、実際にその光を浴びると、時の流れが少し逆に回っているような、不思議な気持ちになる。湘南の冬の海は風が強いけれど、光はやわらかく暖かい。早朝に浜辺の沿道に立つと、潮の匂いとともに、冷

たい空気のむこうから人々の歓声が響く。その中を、選手たちはひたむきに走り抜けていく。どの選手も早い早い早い、そして、どの顔も一点を見つめ祈っているかのように静かで、力強い。

なぜ日本人は駅伝が好きなのだろう。おそらく、それが「一人ではない」競技だからだと思う。区間ごとに襷をつなぎ、見えない仲間の思いを背負って走る姿に、私たちは自分の人生を重ねる。息が上がっても、次へ託せばまだ続いている。個よりも“つながり”を信じる、この国らしい風土がそこにある。

湘南の水平線の向こうで、次の走者が待っている。正月の青空の下、海風に揺れる襷を見つめながら、私はいつの間にか、ランナーのひとりになつたかのように高揚している・・・そんな気がする。

(佐藤 雄一郎 記)

広報委員会委員：佐藤雄一郎・橋立英樹・勝井豊・高塚尚和・磯部賢諭・高野由美子・恩田晃・平塚素子・永井雅昭

新潟県医師会報・第910号〔令和8年1月〕

発行所 〒951-8581 新潟市中央区医学町通2-13 新潟県医師会

TEL: 025-223-6381 FAX: 025-224-6103

ホームページ：<http://www.niigata.med.or.jp> メール：kaihou@niigata.med.or.jp

印刷所 〒950-8724 新潟市中央区和合町2-4-18 株式会社 DI Palette